

| | |
|------------------|---|
| Title | 表紙 目次 |
| Sub Title | |
| Author | |
| Publisher | 慶應義塾経済学部研究室 |
| Publication year | 1944 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.38, No.8 (1944. 8) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19440801--001 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田會學雜誌

慶應義塾大學經濟學部機關誌

第三十八卷 八月號 第八號

日本 蛋族考

一〇八 (五四六)

が本文にいつたO. Jant 俗に(Sea system)である。日本流に家船である。漢民族が蛋と呼ぶ人々や、福建沿岸に出没して海賊を働いた人々は即ち彼等である。彼らは舟山より鷓龍籠、澎湖、浯嶼、香山、方面にまで有史以前から交通し福建を中心に支那沿岸住民と雑居し混淆したであらう。

マライ半島は元來ネグリト系の本國であつたが奥地の猿の運動を轉機として種族がつぎ／＼に南へと押し出されたが原ネグリト系もモン・クメール系に巻き込まれ押し出された。

さてこれから彼等はどう道を探つたか、私はそこに三つの道筋を考へた。そしてその中の一つは西方のメルグイ諸島を、一つはインドネシア諸島を、目指して動き出したが、残りの一つは北上線をとつた。ところで、これには南支那海沿岸を出発點として長く福建廣東の閩越地方を足溜りとし更にそれから再出發をよぎなくさせられて、南朝鮮西北九州の一海圈を目標として動き出した主幹たる大陸縁線コースと、他の一つは富士火山帯を逆にマリアナ群島から小笠群島、伊豆七島を飛石つたいに伊豆半島を中心に太平洋方面から移動してきた海島コースの二つが想像され、而かもこの二つは今日なほ南北兩洋を結ぶ主要コースとなつておる。この運動が相當ながく有史以前から断續的に繰り返されてゐる間にツングース系の二つの流れが前後して亞細亞大陸から南下して原日本へと押しよせてきた、そこに原日本史はハッキリと區別せられなければならない。今日の日本文化はそこから新出發したのであるが、それにしても原日本文化の基調なしには新しい花は開かなかつたことを忘れてはならない。さて、かくして上陸した原マライ系は安曇族、モン・クメール系は隼人、ツングース系は出雲天孫族の基調を作つた。かくて當時の遺孳したとへそれが直接ではないまでもとして漂泊の漁獵生活を維持しておるものが今日の家船「蛋」である。この意味に於て家船「蛋」の血は最も多くの東亞共榮圈的複合要素を多分に有つておるといひ得るであらう。

統制經濟における資本の本質……………千種義人…(一)

經濟表の省略化と其範式……………波邊建…(三七)

貨幣的均衡と生産計畫……………鈴木諒一…(七)